

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第21週 (5/22-5/28) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		21週	20週	19週	18週
	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉県				千葉県
			5/22-5/28	5/15-5/21	5/8-5/14	5/1-5/7	5/15-5/21
			21週	20週	19週	18週	20週
小児科	RSウイルス感染症		1	1	4	0	18
	咽頭結膜熱	○	8	5	7	4	87
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		60	48	46	27	493
	感染性胃腸炎	○	165	163	168	134	827
	水痘		10	7	8	1	65
	手足口病	○	20	10	2	4	31
	伝染性紅斑		1	0	0	0	7
	突発性発しん		19	21	29	13	74
	百日咳		0	0	0	0	1
	ヘルパンギーナ		3	2	1	0	22
	流行性耳下腺炎		3	6	6	3	48
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		3	18	36	35	159
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	2
	流行性角結膜炎		5	5	9	4	42
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	4
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		2	0	0	2	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	8

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体等の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の検出
梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

・第21週は、結核1件(95)、レジオネラ症1件(4)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(15)、梅毒1件(16)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第21週のコメント

<手足口病> 前週より増加し1.11となった。過去10年の同期と比べると多い。

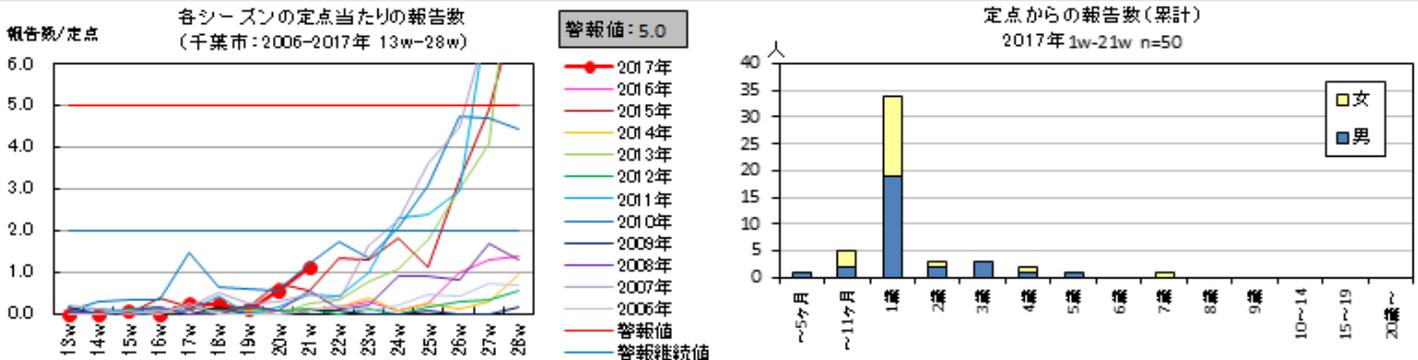
<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.44となった。過去10年の同期と比べると多い。

<感染性胃腸炎> 前週より若干増加し9.17となった。過去10年の同期と比べると多い。

■ トピック ■

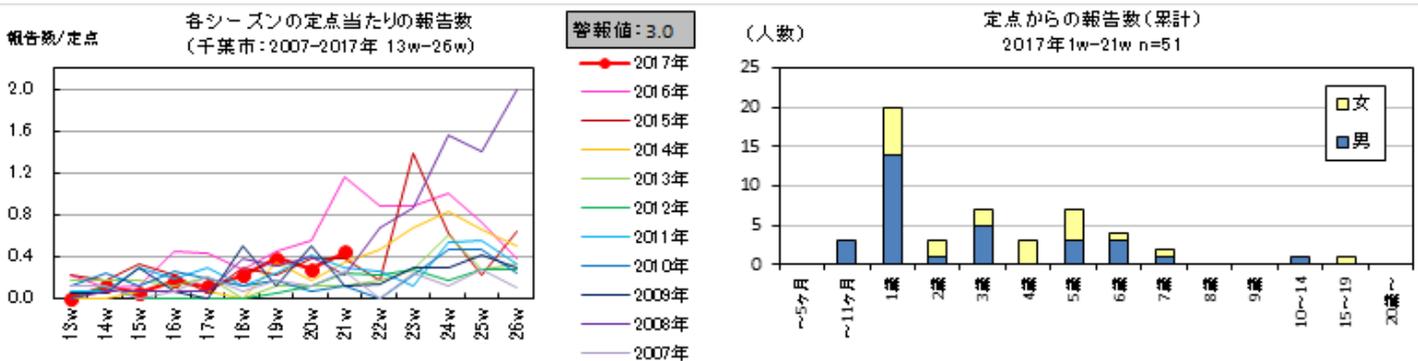
＜手足口病＞

全国レベルの2017年第20週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、佐賀県、宮崎県、福岡県で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第21週は前週より増加し1.11となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(2.0/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。例年の発生動向では、今後更に増加する傾向にあります。2017年第1週から第21週までの累積報告数(n=50)によると、性別では男性が58.0%(19名)、女性が42.0%(21名)で、年齢階級別では1歳(68.0%:34名)、6~11か月(10.0%:5名)、2歳及び3歳(共に6.0%:3名)の順に多くなっています。



＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの2017年第20週は前週より減少しましたが、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、鹿児島県、山梨県、奈良県で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市では第14週から上下しながら増加傾向にあり、第21週は前週より増加し0.44となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、花見川区(1.5/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第21週までの累積報告数(n=51)によると、性別では男性が60.8%(31名)、女性が39.2%(20名)で、年齢階級別では1歳(39.2%:20名)、3歳及び5歳(共に13.7%:7名)の順に多くなっています。



＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの2017年第20週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では福井県、大分県、富山県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2017年第21週は前週より若干増加し9.17となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(19.5/定点)で流行発生警報開始基準値(20.0/定点)を下回りましたが、流行発生警報終息基準値(12.0/定点)を上回り最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。若葉区では一昨年から高い水準のまま推移しており、2017年は第16週から大幅に増加しています。今シーズンである2016年第36週から2017年第21週までの累積報告数(n=5674)によると、性別では男性が54.2%(3076名)、女性が45.8%(2598名)で、年齢階級別では1歳(14.0%:796名)、4歳(12.0%:682名)、3歳(10.8%:614名)の順に多くなっています。

